

12/6のエントリーシートの概要です。

## 第9回 キャリア教育推進表彰 団体表彰（奨励賞）

事業名 小学生お仕事体験塾

団体名 お仕事体験塾実行委員会

### 1 連携・協働している機関や団体、組織

柏崎市教育委員会、柏崎市立小学校、柏崎市立中学校、県立柏崎翔洋中等学校、県立常盤高等学校、県立柏崎総合高校、新潟産業大学

行政や地域・社会、産業界

柏崎市議会、（一社）柏崎青年会議所及び柏崎市にある事業所の医師、弁護士、建築関係観光関係など出店事業所、業種49。

### 2 【活動開始時期】：平成26年 【継続年数】：6年目

お仕事体験塾は、2015年まで柏崎市青年会議所の事業として2年間実施した後、17年から任意のお仕事体験塾実行委員会を組織して柏崎市教育委員会と連携して官民が一体となって開催している。本年度で連続6回目となった。

### 3 活動の内容

若者が柏崎から離れていく現状から、地元にある企業と協力し、小学生に職業体験の機会を与えることで、職業観及び勤労観を醸成させ、みらいの柏崎の活性化のために自ら貢献しようとする志を抱かせる目的に「小学生お仕事体験塾」を開催している。本年度は、8月18日（日）に柏崎市文化会館を会場に開かれ、体験ブースは49。児童数約708人、引率の教師、保護者、ボランティアスタッフ、参加事業所を合わせると1500人の規模で開催した。

#### ① 協力性について

（教育関係者とそれ以外の者が、互いの理念を共有し、いかに協働したか）についての具体的な取組、工夫している

お仕事体験塾実行委員会は、地元の企業経営者、民間企業従事者、市内教員、教育委員会職員の16名で組織し、共通の理念として「柏崎で働く大人の思いに触れ未来の柏崎をつくる子どもの育成」を目指している。さらに、出店事業所には、お仕事体験塾の趣旨の徹底を図る目的で、事前説明会（7月4日）を開催した。説明会では「事業所間で力を合わせ、柏崎の未来の子どもたちを輝かせよう」という願いから、「仕事の大切さを伝える。働く工夫について伝える。各企業の成功体験を伝える。柏崎で働く喜びを伝える。」を合い言葉として取り組むことを確認した。

## ② 継続性について

（長期にわたり運営していくための工夫がなされているか）」についての具体的な取組、工夫している点

6年間継続できたのは、本事業が「子どもたち・出店事業所・学校」にとってそれぞれ有意義であったことによる。毎回開催後、具体的な取組内容についてそれぞれにアンケート調査を行い評価から改善を行っている。

児童アンケートでは、お仕事体験塾で出会った様々な業種や人々とのふれあいから、郷土への愛着と誇りをもち「将来柏崎で仕事をしたい」91.0%の意識が育ってきている。その理由は、「柏崎には働きたい仕事がある」「柏崎には優しく一生懸命に教えてくれる人や楽しく働いている人がいる」と答えている。

出店事業所アンケートでは、事業所間が連携して、さらに働く人々が一体となって、柏崎の未来を担う子どもたちを育てていこうとする意識の高まりが感じられた。特に柏崎の未来の子どもたちを輝かせたいという願う事業所が多くなってきている。

学校はお仕事体験塾から、子どもたち働くことの意義を理解し、よりよく生きる基盤形成に役立ちました。さらに、児童が将来の進路を考える態度や意志、意欲などを培うことのできる重要な意味付けにつながった。

アンケートから、実行委員会では事前に7回の会議を開催し改善点を明らかにしながら「出店事業所への働きかけ、運営面での改善、参加校への事前指導資料の配付」等に取り組んだ。

## ③ 実践性について

（学校・地域のニーズを捉えた取組となっているか。また、これらの取組が下支えとなって学校における効果的なキャリア教育が推進されているか）」についての具体的な取組、工夫している点など

新学習指導要領では、キャリア教育の児童へ充実として社会的職業的自立に向けての資質・能力の育成を目指している。児童の感想では「この体験から初めて将来について真剣に考えるようになりました。私は市の職員として将来柏崎の発展に力を入れたい。」「私は7つの体験をしました。仕事をすることで人のためになることを初めて知りました。」と答えている。

さらに各学校からの報告では、「お仕事体験塾」の活動から、児童は働くことの意義を理解した。また、これまで意識していなかった将来の進路を考える態度や意欲などを培う重要なきっかけとなったと回答している。このように学校が目指すキャリア教育の充実に本お仕事体験塾が役立ったと推察される。

## ④ 発展性について

（当該団体が実施する取組が地域社会全体へ波及し、より多くの協力を得られる取組

となっているか)」についての具体的な取組、工夫している点

平成26年第1回のお仕事体験塾では出店事業所が20であった。昨年45、本年49と出店事業所が増えてきている。その背景には、柏崎の企業が人材確保に課題があること。お仕事体験塾の意義が新聞テレビなどのメディアにより市民への認知が高まったこと。さらに最も大きな要因は、出店事業所が直接子どもたちと関わり、働くことの思いや郷土を愛する意識を育てることにつながったと実感できたことが大きい。

お仕事体験塾実行委員会では、出店事業所を対象とした「出店事業所説明会」を開催している。若者が柏崎市を離れていく傾向がある中、企業間が協力、連携して子どもたちに職業体験から職業観、勤労観を醸成し、郷土愛を育て未来の柏崎の活性化のために貢献しようとする意識を育てることについての理解が高まってきている。

出店事業所へのアンケートでは、「柏崎の未来の子どもたちを輝かせたい」(93%)と高い評価を頂いている。さらに事業所の感想では「すぐに仕事がうまくなるのではなく徐々に上達するこが、仕事の難しさであることを伝えられた。」と満足感を得ていた。出店事業所全体で柏崎の子どもたちを育てたいとの思いが生まれてきている。

本実践に対する柏崎市民の期待度は高まって来ている。実行委員会では、啓発活動の充実を図り、市民と一体となって柏崎の未来を担う子どもたちを育てていこうと考えている。

#### 4 アピールしたい点

本年度新たな試みとして次の取組を行った。

##### (1) 中、高、大学生ボランティアと出店事業所の交流会

これまでお仕事体験塾は、小学生への働くことへの意識を高め、将来の柏崎を担う人材育成に寄与してきた。

本年度、新たな試みとして「お仕事体験塾」終了後に「中、高、大学生ボランティア」と出店事業者との交流会を開催した。中、高、大学生が勤労観、職業観について直接聞く機会となり有意義な会となった。

交流会で学生ボランティアから「仕事で大切にしていることはどんなことですか。」の質問に、花屋は「お客さんへの笑顔です。ただお花を買う人への笑顔だけでなく贈られる人が笑顔になってもらえるコミュニケーションを大切にしています。」の回答に、学生は働くことの新たな視点を獲得する機会となった。

小学生の取組から、中、高、大学生と途切れのない人材育成へと一歩、前進できた。

##### (2) 障がいがある児童の体験支援

これまで障がいがある小学生が体験することが難しい場合があった。本年度、障がいの状況に応じて体験可能なブースへ実行委員会が引率して体験できる取組をスタートした。本年度は参加者が3名と少なかったが、車椅子で仕事を体験する児童もいて今後充実していきたい。

一方出店事業所にとっても、障がいの状況に応じて就業の可能性を知る機会となっ

た。

#### 5 学校現場の評価・感想・コメントなど

各学校（引率者、教員ボランティア）から寄せられた感想は次の通りである。

- 運営がスムーズで、子どもにとって炎天下でもストレスフリーで快適に様々なお仕事を体験できていたように思いました。
- 体験してみたい仕事が多くあり、こんなに恵まれた環境が用意されている柏崎の子どもたちをうらやましく感じてしまうほどでした。ぜひ来年からも、より多くの子どもたちに貴重な体験をさせてあげたいと思いました。
- 真夏の屋外の暑い中の体験でしたが、興味のある仕事にどんどん向かっていく姿が、見ていて大変頼もしかったです。
- 何を体験しようか迷っている様子の子どもたちに、「あそこでは、こんな体験ができるみたいだよ」と声を掛けると、「やってみようかな」と向かい、体験が終わると笑顔でブースから帰る姿も多く見られました。柏崎市のお仕事体験塾のすばらしさに感動しました！

#### 6 行政・産業・地域団体、その他関係諸機関からの評価・感想コメント

出店事業所のアンケートでは、子どもたちに「働くことの思い伝えることができたか」80%をと回答している。さらに、子どもたちの「柏崎への郷土愛を育てることができたか」の設問でも同様に80%の結果であった。

具体的な記述では

- 子どもたちに柏崎の良さを知ってもらえたと満足している。
- 自分たちの仕事を知ってもらえ、この仕事に就きたいと思う子がいたことが柏崎への愛着につながった。
- お仕事体験塾のイベントに参加して良かった。次年度も参加したい。

#### 7 活動の今後の展望

本実践は、任意のお仕事体験塾実行委員会を組織し柏崎市教育委員会、柏崎市の全小学校と連携して官民一体となって取り組んでいる。

ある学校では、働く意義・意味を理解させるために、これまで修学旅行で「東京キッズニア」に連れて行って体験させていた。今後お仕事体験塾を活用したいとの回答から、継続の必要性を感じている。

教育委員会から団体参加校にバスを配車した結果、夏休みの休日にもかかわらず6年生参加者は市内全体の80%を超え、キャリア教育の充実につながっている。

今後も出店事業所の開拓。体験児童への適切な働きかけから郷土愛の育成、キャリア教育の充実に努力したい。

また、本年度ホームページ（<http://oshigototaikenjuku.com/>）を開設した。市民への啓発活動にも一層努力していきたい。



薬剤師体験の子どもたち、薬の調剤を体験しました。



参加した児童、出店事業所スタッフ、ボランティア、引率、保護者を含めて 1,500 名が参加しました。